

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドハートはら		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 1日		～ 令和7年 2月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数) 22名
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 10日		～ 令和7年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが安心感をもって来所してくれており、保護者様にも満足の評価を頂いていること。	活動内容が固定化されないように日々職員との話し合いや子どもたちとのやりとりを通して、決定している。 余暇時間も子どもたちと積極的にアプローチが行えるよう見守りを行っている。 伝えるべきことは送迎時にも時間をとって、保護者様に面と向かって伝えるようにしている。	保護者様から外出レク時の行き先や、創作等の活動の中で取り入れてほしい内容の要望もあるため、期待に応えることができるよう、柔軟な取り組みを展開していきたい。
2	研修やスキルアップの機会が整っていること。	必要があれば、随時研修を実施している。 研修内容を踏まえた上で、朝礼や終礼で検討を繰り返し行い、資質の向上に努めている。 資格取得にも積極的に、児童発達管理責任者の資格取得や強度行動障害支援者養成研修にも力を入れている。	より専門的な外部講師に依頼した研修も行っており、今後必要に応じて、研修内容の充実を図るためにも積極的に取り入れていきたい。
3	保護者様の意向に沿った支援計画にて、支援の内容を充実させていること。	児童発達支援管理責任者をはじめとして、関係機関との連携や保護者様とのやりとりを反映した支援計画の作成に努めている。 子どもの主体性や意思の尊重を損ねないよう、最大限に配慮しながら計画の作成にあたっている。	アンケート結果を踏まえて、支援計画は満足頂いており、保護者方にも十分な情報共有ができるよう、努めていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会、情報提供の機会等を拡充していくこと	保護者会が保護者が参加可能な方に限定されていること。	研修を通して職員のスキルアップ向上を図り、ホームページ等も活用して情報提供の場を拡大に努めていきたい。 保護者様が参加可能な場を各関係機関と調整した上で、実施していきたい。
2	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会について	行事への参加は行っていないが、地域行事の情報は収集するように努めている。 外出先では、安全面を考慮した上で、子どもたちの主体性を損なわないよう最大限に配慮している。	今後も情報収集に努め、参加可能な交流の機会があれば積極的に取り組んでいきたい。
3	非常時等の対応における取り組みについて	活動の一環として、避難訓練等を取り入れているが、保護者様に十分な情報共有ができていなかったこと。 土曜・祝日に活動が集中しており、平日の対応が難しいこと。	利用児童や保護者様に周知して頂けるよう、長期休暇や子どもたちの下校時間を見計らって、避難訓練等を実施していきたい。 普段からマニュアル等に関する周知を実施していきたい。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		チャイルドハートはら		公表日		令和7年3月31日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		活動プログラムに応じて、活動スペースを柔軟に確保している。	活動スペースは十分に確保することができている。余暇の時間でも児童が居屈しないよう対策をしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		配置基準を順守した配置を行っている。	配置基準より多く職員を配置している。児童指導員の配置要件に加え、有資格者のみならず、他分野での職務経験をもつ職員も配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		活動ごとに空間をわけている。	2階の使用はせず、1階を使用。活動ごとに和室・リビング・キッチンを使い分けを行っている。ホワイトボードを使用し、視覚的にもわかりやすいような取り組みを行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		毎日次亜塩素酸やアルコール等を用いた清掃を実施しており、活動内容等に応じた空間展開を実施している。	活動の形態によっては、スペースが十分とれない時もあるため、密にならずに活動に集中できるようルーピングや配置の仕方を検討していく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		必要に応じて、相談室等を個別で使用可能な場所として設けている。	今後も、必要に応じて、クールダウン用のスペースとして、個別の空間を提供していく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		毎日の朝礼・終礼にて情報共有や課題、結果等を話し合っている。	終礼でその日の振り返りを行い、また毎月のカンファレンス等で職員全体の共通認識を図っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		アンケート結果を全職員で共有することで解決すべき課題について明確化を図っている。	改善できる点はすぐに実行に移している。難しい場合は、代替案を用いて対応を図っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		毎日の朝礼・終礼にて情報共有や課題、結果等を話し合っている。職員会議等の機会も設けて業務改善の課題に繋げている。	さまざまな角度から出た意見を基に業務改善策を実施していく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7		第三者による評価を受けている。	苦情解決制度に則り、苦情受付担当者と苦情解決責任者を設置している。今後も、必要に応じて、第三者委員会による評価も受けしていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		外部研修や研修後の報告会を実施し、職員間で情報の共有化を図っている。	虐待防止委員会、感染症対策委員会等による法人全体での研修、外部研修受講者による伝達講習を実施している。外部講師の招聘も積極的に行っていく。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		全職員で支援プログラムに関して話し合いをしている。	令和7年2月末に作成を行い、ホームページ上に公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		一人ひとりに沿った個別支援計画書を作成している。	今後も、保護者からの聞き取りと、相談支援専門員との情報交換、職員からの情報をもとに、児童の発達課題を明確にした個別支援計画書の作成していく。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		毎日の朝礼・終礼にて情報共有や課題、結果等を話し合っている。職員会議等の機会も設けて課題の改善に繋げている。	全職員が参加できる時間帯を調整し、議論への参加機会を増やしていきたい。また、こどもの具体的な状況やニーズに基づき、事例検討を進めていく。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		毎日の朝礼・終礼にて情報共有や課題、結果等を話し合っている。職員会議等の機会も設けて課題の改善に繋げている。	今後も、カンファレンス等を通して共有していきたい。その際、新たな課題が見つかった場合は、早期に修正していく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		FIMで調査をしている。支援記録や月間カンファレンス、朝礼や終礼等にて日々職員間での情報共有を徹底している。	国際基準であるFIMの評価シートを使用し、アセスメントとモニタリングを実施している。今後も、日々の変化を観察、評価していく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		ガイドラインを主軸として、活動内容を展開している。モニタリングや担当者会議だけでなくとどまらず、日々の送迎時にも聞く力を発揮できるよう努めている。	今後も、お子さんの支援に必要な項目を選択し、多職種でカンファレンスを行い、多角的に支援計画を検討していく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		ガイドラインに沿った活動を行っている。	今後も、児童に合わせた外出や活動内容を常に話し合い、体験的活動を設定していく。	

の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		職員間で話し合い、前年度の活動プログラムと照らし合わせながら、毎年固定化された活動内容がないか確認している。	日々の活動内容や毎月の外出先を変更し、支援を行っている。長期休みではマリンワールドや国立博物館等の地域資源を活用している。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		個別、集団共に児童に合わせて作成している。活動プログラムの内容や進め方等について、事前に全職員で打ち合わせを行っている。	然るべき資格者が適切な評価を行い、個別に支援目標を立てて児童発達支援管理責任者が作成している。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		毎朝ミーティングで確認している。	今後も、毎日必ず始業時に、また、急な変更が出た場合、送迎前や送迎後にも必要に応じて時間を取り、全職員で確認し業務にあたっていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		連絡事項や確認事項等、職員同士で意見を出し合い共有している。	風通しの良い職場環境づくりを目指し、各職員が感じたことを何でも言える場を設定している。今後も、多角的・多面的な視点からの意見をすべて吸い上げるようにしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		個別支援計画書に基づいた支援記録を行っている。	日々支援記録を作成し、支援内容を振り返ることで支援計画に反映している。今後も継続していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		児童の成長過程があるため、随時行っている。	支援開始前、半年周期でモニタリングを行っている。また、必要に応じてモニタリングの実施と個別支援計画書の変更を行っている。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7		ガイドラインに記載している基本活動を中心に日々の活動をバランスよく配列できるように工夫している。	ガイドラインの基本活動の項目を反映させた上で、個別支援計画書に沿った支援を日々行っている。また、支援内容や方法などを詳細に記録しファイリングしている。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		あらゆる場面において、子どもたちの主体性に重きを置いた支援を展開できるよう支援を実施している。	今後、活動プログラムにおいても、こどもたち自身が選択していけるような内容を増やしていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		管理者及び児童発達支援管理責任者が参加する体制を取っている。	基本的に管理者及び児童発達支援管理責任者が参加している。必要に応じて、児童と関わる密度が高い職員や有資格者も参加していく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		項目内容だけでなく、近隣の放課後デイとも協力関係を結んでおり、密に連絡を取り合っている。	子どもの状況に合わせて、必要な支援が受けられるよう関係機関との連携を増やす方向で検討していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		一人ひとりの児童の利用状況を伝え、情報共有している。	学校との直接的な情報共有に加え、利用予定表や時間割を活用し連絡調整を行っている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		密に連絡を取れる体制づくりに努めている。	利用開始前に療育センター及び保育園・幼稚園との連絡調整を行っている。又、担当者会議に当該児童の園長などに参加してもらうこともある。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7		現在、学校を卒業する児童はいない。	該当児童がない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7		密に連絡を取れる体制づくりに努めている。	福岡市外のチャイルドハートの児童発達支援事業所や相談支援専門員からの助言を受けている。又、事業所としても外部研修への参加を促し、職員間で情報を共有している。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7		個人情報の観点から交流の機会はない。個人情報の観点から現在は行っていない。	個人情報保護の観点から行っていないが、必要に応じて検討している。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7		積極的に参加できるよう体制づくりをしている。	勉強会や研修には参加することがあり、伝達講習も行っている。積極的に参加できるよう体制づくりを検討していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		担当者会議や送迎時など、日々の状況を伝え合うように努めている。	日々、保護者様との情報の共有と共通理解が図れるように努めているが、不足している部分については、管理者や児童発達支援管理責任者を中心に改善を図っていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		ニューズレター（会報誌）で記載するようにしている。	会報誌や個別面談等で随時行っている。職員によって知識量に差があるため、研修を重ねてスキルの上昇に努めたい。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時に保護者様に理解してもらえよう、然るべき有資格者が行っている。	契約時に重要事項説明書を用いて、説明を行っている。支援内容は保護者の意向をくみ取れる様努めていく。	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		子どもや保護者様の意向を尊重しつつも、事業所を通じて感じる事柄は、どのような内容でも共有し、具体的な支援の方向性に結びつけるきっかけとしている。	保護者会の開催だけでなく、必要に応じて、個別相談の場を設け、直接意見を聞く機会を増やしていきたい。	
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		相談支援専門員の方と連携をとりながら、実施している。	今後も、理解、イメージがしやすいように、活動時の例を提示しながら、わかりやすいような説明を心掛けていく。	
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		保護者様から話を聞いて、支援に努めている。	保護者様からの悩みや通学等の相談があったときは、時間をとって、相談にのっている。送迎時等、相談を受けた職員の知識が不足している場合は後日、然るべき立場の職員より対応させてもらうこともある。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7		ニュースレター（会報誌）や案内状を通して発信している。	公民館を貸し切り、事業所ごとに部屋を分けて保護者会を実施した。来年度も計画していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		適正委員会との適切な対応を心掛けている。	苦情受付窓口や苦情解決責任者を設置しており、苦情については迅速に対応している。解決方法を職員間で協議し、解決に努めている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		利用届を通して、毎月の活動を発信している。また、活動の様子を連絡帳だけでなく、写真を送るなどしている。	今後も、わかりやすいように情報を発信していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		利用者様ごとに個別に情報を送っている。	個人情報保護については、日々あらゆる面において注意しながら業務にあたっている。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		不穏時や自傷・他害を認めた際は、スペースを確保し、落ち着かせるように対応している。	児童には言語的、非言語的アプローチ及び見える化を行っている。保護者様へは必要に応じて情報伝達を行っている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		7	行事への参加は行っていないが、地域行事の情報は収集するようしている。	個人情報保護の観点から現在は行っていない。閉鎖的な事業所とならないよう外部講師を招く等地域に根差す事業所作りに尽力していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		避難経路等は地域に合わせて、各マニュアル作成をしている。	職員に対しては、個人研修を行っている。また、緊急連絡網を作成し、事業所内にも掲示している。保護者様へも契約時にマニュアルの説明、閲覧をもらっている。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		BCPは策定しており、定期的に避難訓練等も実施している。	職員が自信を持って行動できるよう、災害対応に関する研修を通して意識を高めていきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		FIMで調査をしている。保護者様から聞いた際には、すぐに対応している。	保護者が安心して状況を伝えられるよう、相談しやすい環境や仕組み作りを進めていきたい。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		FIMで調査をしている。保護者様から聞いた際には、すぐに対応している。	アレルギーのある児童の保護者様には、事前に保護者様にも使用材料等を共有している。問題等があれば、即時対応を行っている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全計画に基づいた研修や訓練を行っている。	日常的な安全点検を職員全員で行い、潜在的なリスクの早期発見と対応を目指していきたい。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		安全計画を作成し、見やすいところに掲示を行っている。	安全計画に基づく取組内容を定期的に見直し、その都度事業所に掲示して周知していきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		作成後はオーナー、本部に報告し、事後対策は必ず行っている。	インシデント、アクシデントも含めてその日のうちに作成し、全職員に周知している。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		定期的に研修を実施し、日ごろから自己研鑽に励んでいる。	研修後、評価票を用いて自己評価と振り返りを行っている。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		行った場合は、業務日誌に記載するようになっている。基本的には身体拘束を行う場面はない。	3原則に沿って行いが、身体拘束した事例はない。身体拘束を行った場合は保護者様に説明後、同意書を頂くことになっている。	